

# 福 井 県

## 福井県幼児教育支援プログラム（案）に関する 県民パブリックコメント意見募集の結果

平成24年10月30日  
福井県教育庁義務教育課

今回、「福井県幼児教育支援プログラム（案）」について、県民の皆様から御意見を募集したところ、次のような御意見をいただきました。

御意見をお寄せいただきました皆様に厚くお礼申し上げます。

県では、いただいた御意見を「福井県幼児教育支援プログラム」および今後の施策の参考とさせていただきます。

### 1 募集期間

平成24年10月1日（月）～平成24年10月15日（月）

### 2 意見件数（意見提出者数）

21件（11名）

### 3 提出された御意見の概要および県の考え方

別添資料のとおり

### 4 問い合わせ先

福井県教育庁義務教育課

TEL 0776-20-0732

FAX 0776-20-0671

E-mail youji@pref.fukui.lg.jp

## 幼児教育支援プログラム案 県民パブリックコメント

### 意見の概要および県の考え方

#### 1 プログラム全般

No.	意見の概要	県の考え方
1	<p>&lt;プログラムの策定&gt;</p> <p>今回一つの大きな形が出来たことは、子供達に携わっている者にとってとてもうれしく、また親の支援に関わっている立場からも心強いものがあります。</p>	<p>幼児教育支援プログラムは、幼児教育に携わる方のほか、保護者や祖父母、地域のつながりの力で、人間形成の基礎を培う上で最も重要な時期の幼児期の教育を県民のみなさんとともに一層向上させていくため策定しました。</p>
2	<p>&lt;プログラムの周知&gt;</p> <p>プログラムが保育所、幼稚園や小学校、また家庭に広く周知できるように努めていただきたい。</p>	<p>このため、策定後、速やかに説明会の開催やホームページへの掲載のほか、幼児教育研修や施策の実施を通して幼児教育の重要性やプログラムについて周知に努めてまいります。</p>
3	<p>&lt;他施策との連携&gt;</p> <p>県の子育て支援や発達障害に対する取組みの中で、今回のプログラムの課題達成に活用できる事業、取り組みがあるので、他課との横の連携、市町との連携を図ってほしい。また、今まである資源をより有効に活用して、幼児教育支援プログラムが動くように計画してほしい。</p> <p>近年、障害の分野ではなく、保育、幼児教育、家庭教育の管轄の事業から、発達障害についての講演の依頼が増えております。幼児教育の分野でも発達障害への関心が高まっており、園での生活をする中で困り感のあるお子さんがたくさんいらっしゃるようです。</p> <p>子育てマイスターの研修、子育てサポーターの研修、公民館の主事さんの研修、家庭教育推進の研修、テレビやラジオへの出演等から講演依頼がありますが、それぞれが別々の事業として実施されています。すべて、幼児の教育に関することだと思いますので、幼児教育支援センター内にそれぞれの事業の連携がなされるような仕組みがあるとよいと思います。</p>	<p>幼児教育支援プログラムの策定に当たっては、庁内関係課と一緒に検討を進めてまいりました。このため、プロジェクト・施策については、他課で実施している施策も反映しております。</p> <p>また、ご指摘の子育て支援や発達障害に関する取組みなどと連携していくため、県や市町の行政組織で福祉、教育に分かれている保育所・幼稚園担当課をすべて集めた「県・市町担当課会議」を設置し、幼児教育に関する情報共有や連携策について、全国でも数少ない協議の場を設けております。</p> <p>さらに、幼児教育支援センターでは、子育てマイスターや子育てサポーター等幼児教育に携わる方々に必要な研修等の情報を収集・発信することで、幼児教育支援拠点としての役割を担ってまいります。</p>

No.	意見の概要	県の考え方
4	<p>&lt;幼児教育の体制&gt;</p> <p>県の幼児教育支援プログラムで行われる施策が障害をもったお子さんも利用、活用できる体制を整えてください。(例 親子自然体験学習を推進されるなら、その体験学習に障害を持った幼児も参加できるような配慮をお願いします。)</p>	<p>保育所・幼稚園などの集団生活を通して、発達の遅れなどいわゆる“気になる子”に関する対応等が園で大きな課題となっております。</p> <p>こうした場合、保育所・幼稚園が家庭と十分な協力関係を築くため、福祉や医療等の専門機関の指導の下、それぞれの特性に対応した保育・教育を実施する必要があります。</p> <p>このため、幼児教育研修の中でこうした課題をテーマに取り上げるなど、障がいを持った幼児の利用・活用ができる体制の向上を図ってまいります。</p>

## 2 保育所と幼稚園の連携を強める (第2章)

No.	意見の概要	県の考え方
5	<p>&lt;幼保連携①&gt;</p> <p>乳幼児を抱えている親御さんにとって、保育園・幼稚園の問題はとて大きな問題でどちらに行かせると良いのか頭の痛い問題となっています。</p> <p>幼保一本の研修をするようになり、連携が取りやすい環境になっていければ、保護者の選択も違っていくと思います。</p>	<p>同一校区内にありながら、ほとんど交流のない保育所・幼稚園も少なくありません。しかし、本県の将来を担う幼児を保育・教育するという点では目的を一にしており、連携のためのシステムづくりなどの手立てを様々に講じていきます。</p>
6	<p>&lt;幼保連携②&gt;</p> <p>小浜市には、公立幼稚園は一園しかなく、あとは保育園です。幼稚園に対する地域の認知度は低く、来年度から幼保連携型の認定こども園になることで、様々な教育上の悩みや不安があります。</p> <p>各年齢の研究会でも幼稚園と保育園職員がともに学んでいます。若い職員が互いに(幼稚園と保育園の保育内容や方法について)を理解し合うまでには至っていないと思われます。今後、県内で増えていくであろう認定こども園での教育・保育がしっかりと行われるためにも、地域で交流の差がないように幼保でのつながりの必要性を感じています。</p>	<p>保育士・幼稚園教諭向けの研修については、主催団体同士の調整次第でより質の高いものとなる余地があります。</p> <p>このため、幼児教育研修の相互乗入や合同開催などにより、幼児を支え、支援していく体制強化につなげていきます。</p> <p>県では、保育所・幼稚園の巡回訪問のほか、保育士・幼稚園教諭を対象とした合同研修を開催し、交流・連携を図っていきます。</p>
7	<p>&lt;幼児教育研修&gt;</p> <p>どの研修にしても嶺北中心で実施されているため、小浜から出掛けることはなかなか大変です。せつかく支援プロ</p>	<p>幼児教育研修において、合同開催や相互乗入を実施し、会場や開催時間帯を調整し、嶺南地域に参加しやすい研修にしていま</p>

No.	意見の概要	県の考え方
	<p>グラムが出来上がり、保育士、幼稚園教諭の資質向上を目指すことが計画の中にあるので、嶺南地域(敦賀市から西の者)が少しでも研修に行きやすいように、敦賀市での開催も視野に入れて研修を計画していただけるとありがたいです。せっかく研修に参加したい気持ちがあっても、住んでいる場所で受講しやすい、しにくいの差があるのは不公平に思います。</p>	<p>す。</p> <p>さらに、県では、センター開設後、嶺南地域への指導訪問回数等を高めていく、“嶺南デー”を設けるなど、嶺北だけでなく、嶺南地域での研修機会を増やしていきます。</p>
8	<p><b>&lt;園庭遊び①&gt;</b></p> <p>私たち現場では、親子でお料理作りをする・お散歩に行く・近くの公園に行って遊ぶなど、身近な所で親子が触れ合って遊ぶことの大切さを伝えていきたいと思っています。</p> <p>また、具体的な遊び方(草花遊び・言葉遊び・伝承遊び等)を園で行うふれあい学級などで取り上げて知らせていかなければいけないと思っています。このような時に専門家の先生が講師で指導してくさだるとありがたいです。</p>	<p>親子など家族でふれあう機会を増やしてため、遊びや体験の充実を図っていきます。</p> <p>このため、県では、家族や友だちと一緒に遊べる遊びや体験を紹介したり、草花や昆虫の名前を教える理科教員など紹介する仕組みづくりを整備していきます。</p> <p>また、家庭においても、野菜づくりなどの食育体験を推奨していきます。</p>
9	<p><b>&lt;園庭遊び②&gt;</b></p> <p>当園では、遊びのコーディネーターの例として挙げられています福井県サッカー協会の方々に依頼してサッカー教室を行っています。専門家の方に指導を受けることで、子どもたちは楽しくサッカーをするだけでなく、ルールについても学ぶことができます。外部の専門家の方から指導を受けることで、よい刺激となっているのは、子ども達だけでなく私たちも同じです。</p> <p>その他の競技でも指導してくださる機関がありましたら、紹介していただけると嬉しいです。いろいろなスポーツを年齢に合わせた遊び方で楽しむことで、体を動かすことの心地良さをどの子にも味わせたいと思います。</p>	<p>「走る」、「跳ぶ」、「投げる」といった基本的な運動能力の低下が叫ばれています。</p> <p>県では、園庭での遊びを通して創造性や社会性を育成するため、サッカーのほか、自然体験など体を動かし、子どもたちが楽しめる遊びの専門家として“遊びコーディネーター(仮称)”を紹介・派遣します。</p>
10	<p><b>&lt;発達障害に関する研修&gt;</b></p> <p>一般の幼児教育の場で発達障害についての研修の要望が高いと感じております。</p> <p>こども療育センターでは、「ふくいっこ、「みんなちがってみんないい」応援プロジェクト」の一つとして、保育士研修(予算外、一般保育園対象)、保育士研修のテキストの作成(予算2年間)を行いました。発達障害についての研修については、ノウハウはあるものの、今年度は予算、人員の関係で実施できておりません。</p> <p>もしも、幼児教育支援プログラムの中に「気になる子への関わり方」の研修が組み込まれるのであれば、こども療育</p>	<p>保育士・幼稚園教諭のレベルアップに必要な研修については、相互乗入や合同開催を通して連携体制を整備するため、幼児教育キャリアアップシステム(仮称)の構築を進めていくこととしております。</p> <p>この中で、ご指摘の「気になる子への関わり方」など研修テーマの幼児教育現場のシーズ・ニーズをくみ上げ、より専門的な知識・スキルを習得するため、大学や医療機関等との連携を進めていきます。</p>

No.	意見の概要	県の考え方
	センターのノウハウを活かしていただけたと思います。	

### 3 保育所・幼稚園と小学校をつなげる（第3章）

No.	意見の概要	県の考え方
11	<p>&lt;保幼小連携①&gt;</p> <p>『第3章 保育所・幼稚園と小学校をつなげる』            施策⑨「スタート・アプローチプログラム」を県内全体で各園、各小学校が連携して作成し、その内容として、「5歳児ができるようになった教室掃除を1年生でも継続する」、「5歳児に正しい鉛筆・クレヨンの持ち方を教える」などを盛り込もうとしていることは、幼児の発達・成長に大きな役割を果たすと思います。</p>	<p>保育所・幼稚園から小学校へと円滑につなげていくことを目指し、「福井県スタート・アプローチカリキュラム指針」を策定し、小学校がリーダー役となり、保育士・幼稚園教諭や園児・児童間の交流、地域の実情に応じた目指すべき姿・目標を共有するなど着手可能な事項から進めていきます。</p> <p>また、小学校の道徳を保育所・幼稚園の教育に活用し、幼児の規範意識や社会性を培う教育を連携して目指していきます。</p>
12	<p>&lt;保幼小連携②&gt;</p> <p>保育所・幼稚園と小学校が「小1終りまで」を共通目標にするというのは、保育所・幼稚園が小学校の予備校化につながらないか。</p>	<p>保育所・幼稚園と小学校では相互の保育・教育内容への理解が十分ではありません。</p> <p>小学校は保育所・幼稚園が、保育所・幼稚園は小学校が、どのように子どもに保育・教育しているかを共有し、相互に連携していくことが必要です。</p> <p>双方で、「幼児の育てほしい姿」を共有し、手を携えて子どもたちを育てていく意識を共有することは、幼児の成長に大きな効果をもたらすものと期待しています。</p>

### 4 家庭の幼児教育力を高める（第4章）

No.	意見の概要	県の考え方
13	<p>&lt;家庭教育向上①&gt;</p> <p>優しい中に厳しさがあって、温室育ちより厳寒を耐えられる力を育てる家庭環境が望ましい。また、一歳から三歳までの子の脳が一番発達盛んな時期なので、この間英才教育を施して多岐なる開発するのもいい。見たり、聞いたり、触ったりすることを絶えずしていれば幼児教育の成果が期待できる。</p>	<p>本県の幼児の家庭の多くが共働き・核家族世帯で、保護者は日々の家庭と仕事の両立にも追われているとの意見も多く、育児・教育に十分な時間をかける余裕がない状況です。</p> <p>県では、保護者自身が育児・教育に関わる時間を増やせる、または内容を充実できるよう、知育玩具や絵本、自然体験など家族がふれあう遊びを紹介していきます。</p>
14	<p>&lt;家庭教育向上②&gt;</p>	<p>ご指摘のように、「親力アドバンスコース事</p>



No.	意見の概要	県の考え方
	<p>施策⑩「親力アドバンスコース事業(一日保育体験)」は、親や祖父母等の家族が子育て・教育に対する理解を深め、園との良好な関係をつくりながら子どもを健やかに成長させることにつながると思います。</p>	<p>業」は、保護者や祖父母が幼児教育に必要な知識、スキルを高め、我が子の育児・教育に対する意識を高めていただくため今年度から実施しています。</p> <p>こうした事業の狙い等を幼児教育関係者や家庭に周知し、積極的な参加を呼び掛けていきます。</p>
15	<p><b>&lt;祖父母支援①&gt;</b></p> <p>今の祖父母の年代は、子育てに対して関わっている人が昔(曾祖父母の時代)より少なく、育児書の世代の人も少なくないと思います。</p> <p>孫への支援に対しては、親支援同様に関わり方等伝える事が必要に感じています。</p>	<p>幼児のいる家庭の9割が三世代同居・近居世帯であり、幼児と祖父母が生活の中で深いつながりを保っていることは本県の大きな特長となっています。</p> <p>県では、祖父母が幼児や保護者の指南役として家庭教育を支えていけるよう、「孫育てガイドンス」を作成し、三世代教育を支援していきます。</p>
16	<p><b>&lt;祖父母支援②&gt;</b></p> <p>施策⑬「孫育てガイドンス」は、祖父母の関わりが高いという福井県の子育て環境の特質をより質の高いものにするにつながると思います。</p>	
17	<p><b>&lt;特別支援教育①&gt;</b></p> <p>発達障害を含む「気になる子」に対する記述が見当たりません。</p> <p>幼稚園には特別支援教育も定着しているはずですが、福井県ではアセスメントもスタートしています。是非詳しく記述してください。</p> <p>また幼稚園(教育)と放課後等デイサービス(福祉)の二重に支える仕組みは、今後就学期への前例となります。</p> <p>全体の課題に入らないとおかしいと思います。また発達障害等を別枠の計画にすることは絶対やめてください。</p> <p>インクルーシブ教育が叫ばれている中で、特別教育支援が外されてはなりません。</p>	<p>発達障害を含む「気になる子」については、幼児教育現場から幼児の保護者に対し、医療機関などの専門家への受診を提案しても拒まれるケースが多い現状から、このプログラムでは、親力アドバンスコース事業を通して園と保護者の信頼関係を構築し、医療機関等への早期対応につなげる施策を掲げております。</p> <p>また、ご指摘のように発達障害については教育分野と福祉分野が一体となって支援していくために、平成24年度から新たに検討組織を設けており、近く保育所・幼稚園、小学校等の段階ごとに「移行支援ガイドライン」や「事例集」を活用した新たな支援体制をスタートさせます。</p>
18	<p><b>&lt;特別支援教育②&gt;</b></p> <p>発達障害や気がかりな状態をもつ子への対応に早期から取り組むことは、一人ひとりの子が個性を發揮しながら成長するために欠かせないことですから、その面の施策がこのプログラムに具体的に盛り込まれることを検討していただくことを願っています。</p>	<p>幼児教育支援プログラムには、これらを新たな施策として追加させていただきました。幼児教育においても教育・福祉の関係機関と連携しながら対応を進めていきます。</p>

No.	意見の概要	県の考え方
19	<p>＜その他＞</p> <p>娘を育てるにあたって、モンテッソーリの教育理論をベースに幼児期を育てています。</p> <p>18年教育。その実証実験を娘で行った訳ですが、正直言って、本当にこんなことで賢い子が育つのか半信半疑でした。しかし、モンテッソーリが主張するように15歳で生きる力を持った賢い子が芽を出すというのは現実となります。</p> <p>今の福井県の教育の最大の問題点は、15歳以降で伸び悩むことです。</p> <p>最初は良くて、最後の直線になったときに一気に他県の生徒にぶち抜かれます。これは、自らが学ぶという自主性が育っておらず、他の人に指示されて勉強をしているからです。また、バランスが非常に悪く、一点豪華主義なので、そのことは国立大学などの受験で大変不利になります。</p> <p>幼児期に体で覚えさせないといけないことがたくさんあり、幼児が行う仕草が何を勉強しているのかの意味を大人が知っていて見守らないといけません。ただ汚いとか迷惑だとそういう視点で幼児を見てしまえば、その子の将来の芽を潰してしまいます。幼児期に行ってこなければならぬ「宿題」を一杯やり残して成長しているのです。</p> <p>親は、子供の才能を伸ばすこともありますが、逆に潰していることが最近よく見かけます。</p> <p>子供の集中力や意欲と言った、最も学ぶ上で重要なメンタルの部分の育児が不足しているのです。</p> <p>読み書き「そろばん」の基礎的な読解力、計算力、集中力がことごとく不足しているので、中学の間までは誤魔化せても高校では崩れます。だから、福井県の学生が大学入試で、石川県や富山県の学生に惨敗するのです。</p> <p>はっきり申し上げて今のままの幼児教育を続けていけば、やがて福井県の豊かな文化や風俗は崩れます。いくらでも講演でも文章でも出します。とにかく、今の間違った子育ての方向性を変えるお手伝いができれば幸いかと存じます。</p>	<p>今の幼児を取り巻く生活環境が大きく変化したことが影響し、テレビを見たり、ゲームをするなどの一人遊びが多くなり、外遊びや自然と触れる機会が少ないようです。</p> <p>また、基本的な生活習慣とともに、人の話を聞き取る力や忍耐力が弱いとの指摘もあります。</p> <p>県では、人間形成の基礎を培う上で重要な幼児期に、遊びを通して生きる力を身に付けさせるため、遊び活性化プロジェクトを掲げました。</p> <p>また、保育所・幼稚園と小学校が、相互の教育内容を理解し、体系的な教育が組織的に行われるようカリキュラムの接続を進めています。</p> <p>この中で、小学校の道徳を保育所・幼稚園の教育に活用し、幼児の規範意識や社会性を培う教育を目指していきます。</p>

## 5 豊かな感性を伸ばす遊び・体験を促す

No.	意見の概要	県の考え方
20	<p>&lt;地域のつながり&gt;</p> <p>地域のつながりでは、登下校を見守って下さっている地域の見守り隊の方にしっかりあいさつをするよう声をかけています。地域の行事参加は、親が参加していない家庭の子どもは参加しないので、気軽にみんなが参加できるように考えていく必要があると思います。</p>	<p>地域特有の伝承遊びや歴史・文化を受け継ぐ活動など、幼児を「地域の宝」として住民全体で育てていく意識が必要です。</p> <p>県では、家庭の自立や幼児教育の重要性について理解を深めていくため、家庭教育に関する研修・講演会を開催していきます。</p> <p>また、子ども会やPTAなど地域の各団体と連携し、地域行事への参加等に対し、幼児の家庭への働きかけを強めていきます。</p>
21	<p>&lt;加古里子絵本&gt;</p> <p>図書館に加古里子さんコーナーを設置し、福井県出身であることを広くアピールすることで、ますます興味をもつ人が増えると思います。当園の絵本の部屋の中にも、コーナーを設けたいと思っています。</p>	<p>本県出身の加古里子さんは、科学絵本など数多くの作品を通して、子どもたちに絵本の楽しさを教えておられます。</p> <p>このため、加古先生のご協力を得て、本年4月に「加古里子絵本セレクション30」を作成しました。</p> <p>また、絵本を通して、言葉の発達を助け、創造性を培う効果なども期待しており、園や公民館、図書館と連携しながら、絵本の読み聞かせのレベルを上げていく研修や講座の開催も実施していきます。</p>